

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ドリーム・ビッグ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ドリーム・ビッグ

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

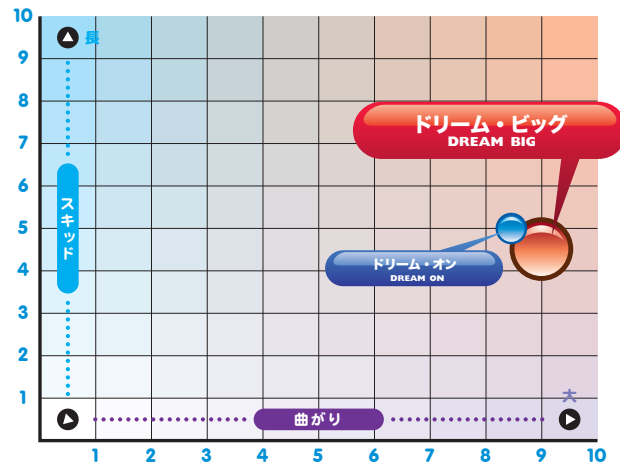
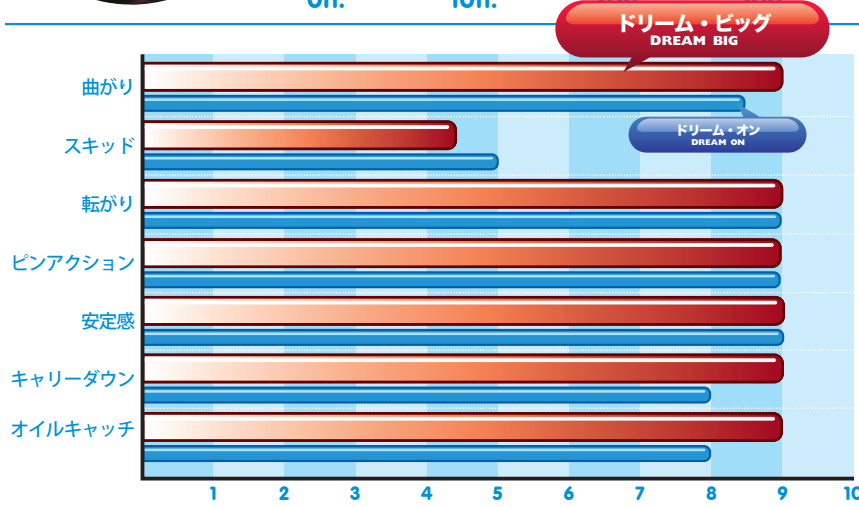
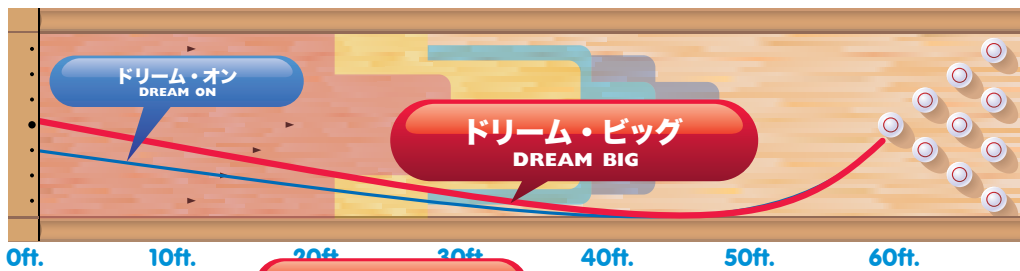
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：ドリーム・オン

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

今年初旬、900Global社にChris Barnesが電撃移籍してからすぐにDHC PBA Japan Invitationalでパーフェクトとタイトルをもぎ取ったあの時、以前からの900Global社からperformanceも体制も変わったのだと見せつけられた感じがします。それを証拠に前身の900Globalでは出せなかった領域のボールが次々に発表され、まだ日本では900Globalは見慣れない社名であっても、もうすぐそこに全世界を900Global一色にできるだけのperformanceは持っていると思います。その先駆けの代表的なボールともなるDREAM BIGを紹介します。今回発売されるDREAM BIGはDREAMシリーズで3作目になります。Core形状は変わりませんが、前回までのDREAMの74 Response Pearl、DREAM ONの74 Response HybridのカバーストックからRESPECTに使用した79 AlertカバーストックのSolid Reactiveを使用しているのが特徴です。ここでの第一の判断は74カバーストックから79カバーストックに変わったことでキャッチは強くなり、RESPECTの1,500 Grit Polishから4000 AbralonになったことでRESPECTよりも全体にキャッチが強くなったと言えます。

投球して驚いたのはDREAMとは思えぬ奥での攻撃的な動きでした。私の中でのDREAMの動きのイメージはContinuous系であった為に、DREAM BIGの奥でのキレ具合にはかなり戸惑いを感じました。しかもキャッチを出しながら奥で動きますので、かなりのオイル量を必要としました。medium heavyからheavyまでを投球でき、Solid Reactiveの”泣き所”と言われていたバックエンドのリアクションの減少とは無縁の性能です。投球動画でも明らかなキャッチの差とバックエンドの動きの差を見て取れると思いますので参考にしてください。

特記事項

現在の900Global社での最大のパフォーマンスとも言えるボールの発売です。キャッチ、バックエンド、ピンアクションの3拍子揃った性能です。